

『不正行為発生のメカニズム』を踏まえた 従業員不祥事の早期発見・抑止に向けたポイント

～不正を犯す動機、企業が与える機会、従業員の内面の状況等、
不祥事対応に“必要かつ有効な”新しい視点～

【開催要領】 ※講師とご同業の方のご参加はお断りする場合がございます。※最少催行人数に満たない場合、開催中止とさせていただきます。

日時▶ 2019年 11月 6日(水) 13:00~17:00

会場▶ 企業研究会セミナールーム(東京:麹町)

【ご参加頂きたい方】

従業員による不正・不祥事の発生は、事実関係の調査や再発防止策など、企業にあらゆる事後対応と大きな負担を強いることから、その兆候を出来るだけ早期に発見するとともに、組織全体で抑止していくことが望まれます。本講座では、不正行為を単なる“従業員の個人的資質に因るもの”とは捉えず「そもそも何故、従業員は不正に走るのか」という、従来の不祥事対応ではあまり論じられなかった『不正行為発生のメカニズム』を、従業員が不正を犯す動機、企業が与える不正の機会、従業員の内面の状況等から多角的に解明していきます。さらに、そのメカニズムを踏まえ、不正行為の早期発見に向けて日頃から着目すべき視点や、抑止策を講じる上でのポイントについて、社内で起こり得る不正・不祥事のケースをもとに、実践的に解説していきます。

講師 西村あさひ法律事務所 パートナー／弁護士 梅林 啓 氏

1989年東京大学法学部卒業。1991年検事任官。東京地検特捜部検事ほか、各地方検察庁において、犯罪捜査・公判等の検察実務に従事。法務省刑事局では主として刑事関連の国際条約の起草作業に関与。在イギリス日本国大使館一等書記官(外務省出向)、内閣官房副長官秘書官等を歴任。2007年2月検事退官後、弁護士登録。同年3月西村あさひ法律事務所入所。2010年1月よりパートナー。現在は主に一般企業法務、コンプライアンス、企業不祥事にかかる危機管理案件などに取り組み一方、「社内調査の進め方」「情報漏えい」「常識のズレが引き起こす企業不祥事」「トレードオフされるコンプライアンス」などコンプライアンス関連のセミナー講師を多数務め、現場での経験を踏まえた臨場感溢れる講演として定評がある。コンプライアンス・危機管理関連の論文も多数執筆。

【申込方法】 当会ホームページ (https://www.bri.or.jp) からお申し込み下さい。

企業研究会Q 検索

受講料: 1名(税込・資料代含) ※申込書をFAXでご送信いただく際は、ご使用のFAX機の使用状況(0発信の有無など)をご確認の上、FAX番号をお間違えないようご注意ください。

正会員	35,200円(本体価格 32,000円)	一般	38,500円(本体価格 35,000円)
-----	-----------------------	----	-----------------------

191007-0303 (※) 従業員不祥事の早期発見・抑止に向けたポイント			
ふりがな 会社名			
住所			
TEL			FAX
ふりがな ご氏名			所 属 役 職
E-mail			

※申込書にご記入頂いた個人情報は、本研究会に関する確認・連絡および当会主催事業のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

■申込・参加要領 : 当会ホームページからお申込みください。FAX、または下記担当宛E-mailからもお申込み頂けます。

後日(開催日1週間~10日前までに)受講票・請求書をお送り致します。

※よくあるご質問(FAQ)は当会HPにてご確認ください。([TOP]→[公開セミナー]→[よくあるご質問])

※お申し込み後のキャンセルはお受け致しかねますので、ご都合が悪くなった場合、代理出席をお願いします。

■お申込・お問合わせ先: 企業研究会 セミナー事業グループ 担当/民秋 E-mail: tamiaki@bri.or.jp

TEL: 03-5215-3514 FAX: 03-5215-0951 〒102-0083 東京都千代田区麹町5-7-2 MFPR 麹町ビル2F

【プログラム】

1. 不正・不祥事対応の現状と新しい視点の必要性

- (1) 企業における従来の不正・不祥事対応から導かれる“結論”と“反省・あきらめ”
- (2) 不正行為発生のメカニズム(=新しい視点)から不祥事対応にアプローチする必要性
 - ・そもそも不正行為はなぜ発生するのか?
 - ・不正行為を行う従業員は、もともと資質に問題のある者なのか?
 - ・従業員が不正に走った一因は、会社にもあるのではないのか?

2. 不正行為発生のメカニズムの解明 ~会社資産の不正流用(横領)をケースに

- (1) 不正のトライアングル(動機・機会・正当化)とは何か?
- (2) お金が必要という「動機」(プレッシャー)
 - ・従業員自らが作り出す動機、会社の行為によって作り出された動機の事例
- (3) 不正流用ができる「機会」
 - ・入金処理、不正支出に絡む機会の事例
- (4) 不正そのものの「正当化」
 - ・「悪いことではない」との自らへの言いかけ、他人への責任転嫁と具体例
 - ・正当化という要素を持つ固有の特徴と留意点

3. 不正行為の早期発見に向けたポイント ~不正行為発生のメカニズムを踏まえて

- (1) 「機会」の発見
 - ・機会がどこに潜んでいるかを考える/不正の機会を得てしまった従業員に見られる行動の特徴
 - ・機会を見つける方法(取引先からの情報提供、上司のチェック機能の検証、内部監査の充実)
- (2) 「動機」の発見
 - ・動機を発見するための視点(個人的悩みへの関心、社内コミュニケーションの充実、など)
- (3) 「正当化」の発見
 - ・不正を正当化してしまっただ従業員に見られる行動の特徴

4. 不正行為の抑止に向けたポイント ~不正行為発生のメカニズムを踏まえて

- (1) 「機会」に関する抑止策
 - ・権限集中の回避/日常的なモニタリング体制、不正が発見できる内部監査体制の確立
- (2) 「動機」に関する抑止策
 - ・会社の行為が、時に従業員の「切羽詰まった状態」を作り出す
- (3) 「正当化」に関する抑止策
 - ・従業員のモラル維持に向けた“しらせない”教育・研修制度の必要性
 - ・不正への厳正なる処分、人事、昇給、昇進に関する透明性・公平性の確立

5. その他不正行為への応用 ~機会・動機・正当化のどこに着目し、どう対策を講じるか

- (1) 架空循環取引
- (2) 秘密情報の持ち出し
- (3) 製品・食品事故・偽装、各種法令違反
- (4) インサイダー取引

※最少催行人数に満たない場合、開催中止となる場合がございます。

裏面もご覧下さい! 一枚のパンフレットで
2種類のセミナーをご案内しております。